



斐伊川放水路分流堰～大津町上来原～

斐伊川放水路初めて分流堰運用

ぶんりゅうげき

9月3日～4日の秋雨前線による大雨で、斐伊川の水量が分流堰地点で毎秒約400トンを超えたため、4日、今年6月の運用開始以降初めて斐伊川の水を斐伊川放水路に分流しました。なお、斐伊川放水路分流堰は、斐伊川が増水し、分流堰地点の水量が毎秒約400トンとなると、水が起伏ゲートを越え、神戸川へとつながる放水路に流れ出し、さらに分流堰地点の流量が毎秒500トンとなると起伏ゲートを倒す操作を行います。

また、計画の最大分流量毎秒2,000トンを超えそうな場合には、制水ゲートを操作し毎秒2,000トン以下となるように調整する仕組みとなっています。

第22回出雲ドーム2000人の吹奏楽

9月7日、第22回「出雲ドーム2000人の吹奏楽」が開催され、多くの来場者が、県内外の小・中・高校など32団体の演奏を楽しみました。この日は、合同演奏「風になりたい」で幕開けし、特別ゲストの「河合第三小学校金管バンド・モア」(奈良県)の演奏や出雲市出身ヴォーカリストの岩谷ホテルさんによる「愛しきわが出雲」の熱唱に会場内も盛り上がりしました。

大会を締めくくるフィナーレは、出場者全員で「メモリー」を合同演奏し、光と音楽による幻想的な演出で、思い出に残る感動のステージとなりました。



フィナーレ：出場者全員による「メモリー」合同演奏～出雲ドーム～



植樹の様子～うさぎ森林公園～

「出雲ツバキの森」植樹式

さぎら

9月15日、出雲大社「平成の大遷宮」を記念し、大社町鷺浦のうさぎ森林公園「夢の森うさぎ」でツバキの植樹式が行われました。今回の植樹は、「出雲ツバキの森」準備委員会(会長：安部勇)が企画され、この「出雲ツバキの森」に、県内産のツバキ約80種200本の寄贈を受け、植樹されました。また、この日、出雲大社の千家宮司が、同地区に自生する黒紫色のツバキを「出雲だいく」(ヤブツバキの新品種)と命名され、地元鷓鴣地区は、今後、出雲大社周辺観光の魅力の一つとして定着していくことを期待されています。

とばたぎおんおあやまがさ

戸畑祇園大山笠大社神門通り練り歩く

9月28日、福岡県の夏の三大祭りの一つで、国の重要無形民俗文化財に指定されている「戸畑祇園大山笠」(北九州市)が、出雲大社の「平成の大遷宮」を奉祝し、神門通りなどを練り歩き、奉納されました。奉納は、昼と夜の2回あり、昼の山笠は、高さ8メートル重さ2トンの「幟山笠」、日が落ちると、山笠は高さ10メートル12段にわたる309個の提灯が取り付けられた「提灯山笠」に姿を替えました。この山笠を、「戸畑祇園大山笠」振興会のメンバー約400人が、「ヨイトサア、ヨイトサア」の掛け声で、山笠を交替で担ぎ、多くの見物客が見守る中、神門通りや出雲大社の参詣道、境内を練り歩きました。



～出雲大社境内～



人口：174,838人
男性：84,385人
女性：90,453人
世帯数：60,855世帯

[平成25年9月30日現在]

11月の市税・保険料の納期限

固定資産税・都市計画税(第3期)、国民健康保険料・後期高齢者医療保険料(第5期)の納期限は **12月2日(月)**です。

期限までに忘れずに納めましょう。